

# 図書館だより

市立図書館



◆第67回読書週間  
 【期間】10月27日(日)～11月9日(土)  
 【標語】本と旅する 本を旅する

◆物部地区文化展おはなし会  
 【日時】11月16日(土)  
 1部 10時30分  
 2部 13時30分  
 【場所】奥物部ふれあいプラザ

◆ボランティア講座 パート3  
 読書週間に合わせてボランティア講座を開催します。今回は2回の講座を計画しています。読み聞かせや、おはなし会など、子どもと本をつなぐ、楽しくやりがいのあるボランティアを目指して一緒に学習しませんか。ぜひご参加ください。

◆香北地区文化展おはなし会 & 出前ミニ図書館  
 【日時】11月9日(土)  
 1部 10時30分  
 2部 13時30分  
 【場所】保健福祉センター 香北母子室

【対象】読み聞かせに興味・関心のある方  
 【講師】秋本美津さん(高知市ボランティアの会代表)  
 【問い合わせ先】本館 ☎53・0301

【内容】山をテーマとした読み聞かせ・葉っぱクイズ  
 【対象】幼児・小学生・保護者  
 【問い合わせ先】物部分館 ☎58・2058

【内容】読み聞かせ・手遊び・パネルシアター・リサイクル本  
 【対象】幼児・小学生  
 【問い合わせ先】香北分館 ☎59・4550  
 ※詳しい内容や募集要項は、後日学校等を通してチラシを配布します。

# 100歳100年展

11月9日(土)～12月15日(日)



▲伊野町風景/山脇信徳

## 香美市立美術館

### アートの窓



香美市立美術館では、秋の深まりとともに、市民の方々に大いにアートの親しんでいただく展覧会として、100歳100年展を企画いたしました。この展覧会は、当館に収蔵されている作品の中から、生誕100年前後の作家の作品を展示するとともに、市民の方々にも参加していただく展覧会です。今から100年前というと、大正時代の初め、大正モダニズムといわれる時代が幕

を開けた頃で、現代の日本の基盤がほとんど出来上がった時代です。その後、日本は世界大戦や経済成長などを経験し、大きく変化を続けてきました。そして近年では、東日本大震災のよう大きな災害にも見舞われています。さまざまな出来事乗り越えてきた、この100年の歩みを振り返り、より良い未来に向けて、100歳100年展として希望のメッセージを発信していきたい

## Pick Up

### 山本美香という生き方



山本美香 著  
 運命の出会いから世界の紛争地へ。愛と行動力で駆け抜けた女性ジャーナリストの真実。彼女はなぜ、紛争地取材し続けたのか？

### 小物のミニチュア・レシピ



関口妙子 著  
 人形服作家が、ミニチュアのバッグや帽子の作り方を紹介してくれます。トートバッグ、デイベック、ニットキャップなど。手作りをしてみてください。

### 教場



長岡弘樹 著  
 「君には警察学校を辞めてもらう」見込みのある教員を成長に導いていく教官。警察学校を舞台にした小説。学園、教師物としても楽しめます。

## 吉井勇記念館だより

### 山里ミニコンサート



9月14日にあわら市で開催された第13回あわら北潟湖畔観月の夕べへ、香美市姉妹都市友好都市交流推進協議会が主体となって、香美市から5人の訪問団が参加しました。香美市の参加は5回目です。香美市ブースで、ユズ・シヨウガの関連商品や、シカドッグ・シカドッグなど、香美市の味覚が姉妹都市に届けられました。

←同イベントでは、野点茶会や芸能発表が行われ、5千個のあかりばやしや、2千発の湖上花火が来場者を魅了した。

## 姉妹都市交流だより

### あわら観月の夕べ



▲観月の夕べ香美市ブース 販売されたシカドッグ

10月19日、香美市童謡を楽しむ会の皆さんによるコンサートを開催しました。香美市在住の島崎照代さんを講師に迎え、長井薫さんのピアノ伴奏にのせたなじみのある童謡のほか、吉井勇作詞のゴンドラの唄や竹久夢二作詞の宵待草などが披露されました。館内では、現在開催

中の『特別展 吉井勇と竹久夢二—浪漫の香り—』の展示解説を実施し、コンサートと合わせて多くの方に楽しんでいただきました。



### 吉井勇作品介绍

亡き友が描きたる墨絵ながめつつ

信濃の山を寂しみにけり

〔解説〕亡き友とは、竹久夢二のことである。親交の深かった二人は、幾度も共に旅をしたが、信濃路から甲斐路へかけて出かけた旅が最後となった。このときの夢二はさつそうとした様子で、帰路につく汽車の窓から旅愁を感じながら二人で信濃の山々を眺めたという。勇は竹久夢二の画賛の掛け軸を愛蔵しており、京都洛北の家の床の間に掛けていたといい、共に旅をし眺めた信濃の山々を思い出し、亡き友をしのぶ様子がかがえる一首である。

■問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220